

高知市の景観形成における感性イメージ評価に関する基礎的研究

高知県 正会員 ○片岡晃一
高知工業高等専門学校 正会員 勇 秀憲

1. はじめに

近年、地域の歴史や文化、風土に根ざした美しいまちなみや良好な景観に対する人々の意識が高まり、地域レベルで様々な取り組みが行われるようになってきている。本研究では、「高知市景観計画」¹⁾における高知市内のゾーニングや地域区分の典型景観の現状を、新たに撮影・選定した景観写真を対象に、その景観イメージ構造としてSDアンケートの因子分析²⁾により明らかにするものである。その結果を「高知市景観計画」の現状調査結果と比較し、さらに「高知市景観計画」の定める各ゾーンの景観形成の基本方針に基づいた考察を試みる。

2. 高知市景観計画

「高知市景観計画」¹⁾とは、高知市の景観を単に造形的に美しい環境を形成してだけでなく、都市・農山漁村の様々な活動や市民生活を反映し、地域そのものの魅力を高めていくものとして、平成21年に定められた景観行政における指針である。より良い景観形成のために、それぞれの地域の景観的特徴を捉えてゾーニングなどを行い、各ゾーンに建築物と工作物の整備方針と整備基準を定めている。

3. SDアンケート

本研究で対象とする景観は、「高知市景観計画」のゾーニングと地域区分を目安にし、景観写真の撮影を行い、32種類を選定した。対象景観32種類に対し、建設システム工学科5年生の男女32名にSDアンケートを実施した。評価言語の形容詞22対を用いて5段階で評価した。ここに、SD法とは、「あたたかいーつめたい」などの形容詞対を用いて、その間を5段階のアンケート調査などにより対象を評価する心理学的測定法の一つである²⁾。アンケートの結果から、各対象景観のイメージ特性を明らかにすることができた。

4. 因子分析

SDアンケート結果を因子分析すると、3つの因子で対象景観全体のイメージ構造を整理できることがわかった。この3因子は対象景観がどのような印象を与えるのか、どのような特性を持っているのかなどの価値観やよし悪しを規定する基本因子となる。各言語対の因子負荷量(表1)により、3つの因子は、クリア因子、ゴージャス因子およびワイルド因子として整理した。各因子軸間の相互関係を、ゾーニング別、主な景観要素別に示した。各対象景観のイメージ特性を考慮して因子間の相互関係からそのイメージ構造を明らかにすることができた。

図1は、対象景観のクリア因子とゴージャス因子の相互関係を示す。図中の番号は32種類の対象景観を表している。

第一象限に存在する景観は、クリア因子ゴージャス因子ともにプラスである。写真1に示す都心ゾーンの菜園場(No.8)の景観は、すっきりとして明るく、清潔感のある景観であると評価できる。これは「高知市景観計画」の都心ゾーンの形態・配色基準にある「建築物の低層部を開放し、疎外感をなくす」や「空に溶け込むよう、高層建築物の上層の明度を高くする」などの条件を満たし、かつ景観としても高い評価を得ている。

第二象限に存在する景観は、クリア因子がプラスで、ゴージャス因子がマイナスである。写真2に示す自然ゾーンの尾立(No.23)の景観は広々として、落ち着いた景観であると評価で

表1 因子負荷量

	クリア因子	ゴージャス因子	ワイルド因子
美しい・醜い	0.9320	-0.0699	-0.1398
澄んだ・濁った	0.9100	0.0884	-0.3344
安定した・不安定な	0.8859	0.0155	-0.2054
広い・狭い	0.8300	0.1116	0.1909
新鮮な・枯れた	0.8103	0.4709	-0.1893
自由な・束縛された	0.7476	0.1667	-0.2660
親しみやすい・親みにくい	0.7369	-0.2927	-0.4768
豊かな・華奢な	0.7314	0.2913	0.1639
自然な・人工的な	0.7049	-0.4792	-0.1847
落ち着いた・慌ただしい	0.6890	-0.5070	-0.3773
繊細な・荒々しい	0.6652	-0.2467	-0.5357
派手な・地味な	0.1504	0.9312	0.0867
鮮やか・穏やか	-0.0002	0.9298	0.0657
刺激的・鎮静的	-0.1866	0.8686	0.1769
新しい・古い	0.2443	0.8466	-0.1697
前衛的な・伝統的な	-0.2150	0.7982	-0.0223
浮かんた・沈んだ	0.6226	0.6528	-0.2693
強い・弱い	0.1904	0.6258	0.5361
明るい・暗い	0.5990	0.6238	-0.3228
あたたかい・涼しい	0.1339	0.5150	-0.4481
男性的な・女性的な	-0.1776	-0.0080	0.7930
軽い・重い	0.6042	0.1256	-0.6826

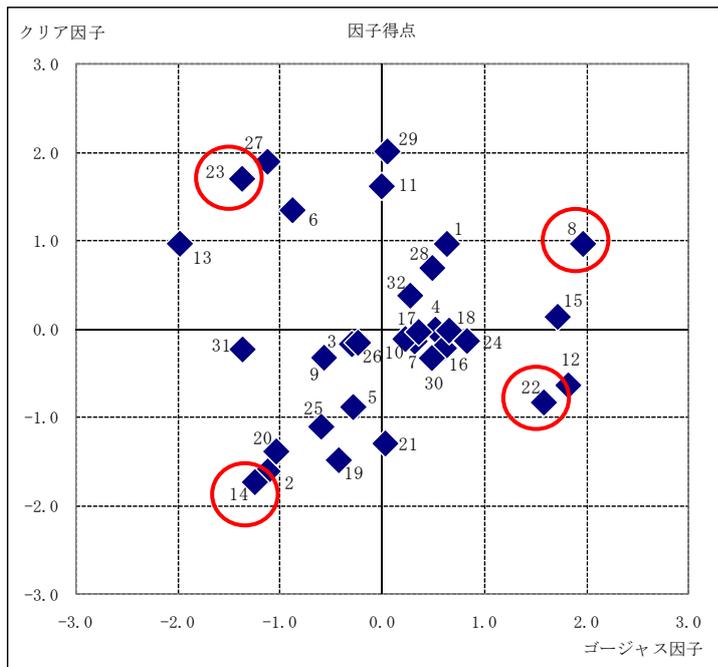


図1 クリア因子とゴージャス因子



写真1 菜園場 (No. 8)



写真2 尾立 (No. 23)

きる。これは「高知市景観計画」の自然ゾーンの形態・配色基準にある「控えめで落ち着いた形態や配色」などの条件を満たし、景観としても評価は高い。

第三象限に存在する景観は、クリア因子、ゴージャス因子ともにマイナスである。写真3に示す低層住宅ゾーンの瀬戸東町 (No.14) の景観は、どんよりとした地味な景観と評価できる。これは「高知市景観計画」の低層住宅ゾーンの形態・配色基準にある「控えめで落ち着いた形態」や「けばけばしい色を避け、まちなみと調和する」という点で一致するものの、クリア因子は低く、美的評価は低い。



写真3 瀬戸東町 (No. 14)

第四象限に存在する景観は、ゴージャス因子がプラスでクリア因子がマイナスである。写真4に示す周辺市街地ゾーンの葛島 (No.22) の景観は、派手だが美しさに欠ける景観であると評価できる。これは「高知市景観計画」の五台山・高須地区の現状である「広々としたのどかな風景」とは一致せず、周辺市街地ゾーンの形態・配色基準にある「控えめで落ち着いた形態」や「けばけばしい色を避け、まちなみと調和する」という点でも異なっている。



写真4 葛島 (No. 22)

5. まとめ

本研究では、高知市内の地域景観のイメージ構造が、SDアンケートを用いた因子分析により、3因子に集約できることを示す。また、「高知市景観計画」の現状調査結果や整備基準との比較によりいくつかの景観において、それらのイメージ構造が一致することが分かった。

参考文献

- 1) 高知市, 高知市景観計画, 2009.
- 2) 管, ホントにやさしい多変量総計分析, 現代数学社, 1996.